

クラス担任のための Career Guidance

2010 > VOL.3

[キャリアガイダンス 特別編集]

RECRUIT

高知県立伊野商業高校
国際観光科／大原信男先生

2003年～07年高知県教育委員会で商業・就職キャリア教育担当指導主事。08年同生涯学習課企画担当チーフを務める。09年より現職。キャリアコンサルタントとして現在も各地でキャリア教育に関する講演やセミナーを行っている。

など様々な体験を通して、生徒は社会性を身につけ、人間関係の築き方や、生き方にに対する自覚を持つことができる。
そんな貴重な体験のできる校外学習。実施前、実施中、実施後の教師の働きかけ方や仕掛け、実施のための校内体制をどうするか。2校の事例と、多くの体験的な活動を手掛けってきた、高知県立伊野商業高校国際観光科の大原信男先生によるアドバイスをもとに、ポイントをまとめた。

本物に触れる、異なる世代と交流するなど様々な体験を通して、生徒は社会性を身につけ、人間関係の築き方や、生き方にに対する自覚を持つことができる。
実施前、実施中、実施後の教師の働きかけ方や仕掛け、実施のための校内体制をどうするか。2校の事例と、多くの体験的な活動を手掛けってきた、高知県立伊野商業高校国際観光科の大原信男先生によるアドバイスをもとに、ポイントをまとめた。

本物に触れる、異なる世代と交流するなど様々な体験を通して、生徒は社会性を身につけ、人間関係の築き方や、生き方にに対する自覚を持つことができる。
実施前、実施中、実施後の教師の働きかけ方や仕掛け、実施のための校内体制をどうするか。2校の事例と、多くの体験的な活動を手掛けってきた、高知県立伊野商業高校国際観光科の大原信男先生によるアドバイスをもとに、ポイントをまとめた。

教室を飛び出した体験活動によって、生徒は大きく成長する。
より効果的に体験学習を実施するにはどうしたらいいのだろうか。

「体験を次につなげる 校外学習の仕掛け」

いくかどうか決まるところ。

「教師が面倒臭がつたり、目的意識をもたないと、どんなにすばらしい校外学習も形骸化してしまう。教師が体験の意義を仲間に見いだすことが挙げられる。「雑務も多いだけに、どんな校外学習も教師一人では難しい。教師同士の協調精神が不可欠です。よさない祭りを体験学習に取り入れた時は、生徒だけでなく教師も保護者もたくさん踊りました」(大原先生)と言ったように、仲間を見いだすことが挙げられる。取り入れた時は、生徒だけでなく教師も保護者もたくさん踊りました」(大原先生)と言ったように、仲間を見いだすことが挙げられる。

「乗り越える」仕掛けを用意

校外学習を「次」につなげていくためには、「乗り越えた」「やり遂げた」と生徒自身が自覚できるような工夫も必要だ。例えば伊野商業高校のインターンシップは、自分が行きたい会社へ生徒がアポを取り電話をし、その上で一度面接を受けさせ、会社の許可が出たら、そこで職業体験ができるといった流れにしている。

「いきなりインターンシップに入つてもいいのですが、面接というワーネクションを置くことで、生徒に緊張感が芽生えるし、直接に合格したことで仕事への責任感も芽生える。実際、面接を取り入れてから企業の評判は上々。生徒のモチベーションが高いと言われます」

ささい祭りへの参加を実施した伊野商業高校の大原先生は、「最初は生徒同士、なかなかまとまらなかつたのですが、放つておいたら、いつの間にカリーダーが生まれ、練習を休む子の様子を見に行ったりしてきました。本番に向けての一体感も自然に出てきました」

教師が主体となつたほうが効率はいいかもしない。しかし、生徒の達成感がまったく違つてくると言つう。

「達成感を味わつた子たちは、やればできるのだということが体でわかるんです。すると次から難題にぶつかつても、あきらめなくなる。このあきらめない気持ちが生きる力になる」(大原先生)。

宮城学院高校の吉田先生も、生徒の自主性にまかせることが重要だと考える。

「正直、「見守る」というのは教師にとって嬉しいことです。インタビューをしたい人になかなかアポが取れなくて戸惑っている生徒を見ると、じれつたくてつい『もうしない』と言いたくなる。でも、そこをじつと我慢して、本人にやらせる。失敗もまた貴重な体験だからです」

伊野商業高校のよさこい祭り練習風景

教師も仲間を作る

校外学習は教師に相当な労力を課す。実施の大変さを乗り越えるにはどうすればいいのか。その一つとして同僚の中、仲間を見いだすことが挙げられる。「雑務も多いだけに、どんな校外学習も教師一人では難しい。教師同士の協調精神が不可欠です。よさない祭りを体験学習に取り入れた時は、生徒だけでなく教師も保護者もたくさん踊りました」(大原先生)と言ったように、仲間を見いだすことが挙げられる。

大原先生は振り返りを行う際は必ずそれぞれの生徒の行動をとにかく褒めまくるそうだ。それに伴って生徒たちは達成感をより一層高めていくといつ。

伊野商業高校のよさこい祭り参加風景

生徒の自主性にまかせることの大切だ。数年前、夏休みの体験の一環として「よ

生徒の自主性を尊重する

書かせる、褒める振り返り



伊野商業高校のよさこい祭り参加風景

家族のために食事を作る宿題はレポート提出で「気づき」を掘り起こす

[東京・私立麻布高校]

麻布高校の生活総合(家庭科)では、1学年に夏休みの宿題「家族のために食事作り」を課している。普段作つてもらう側の生徒が、誰かのために食事を作ることで、思いやりを育み、いつも作ってくれる人への感謝と尊厳につながる。まさにそれが自立の第一歩になると想え、97年度より続けている。実際に作ったことで何を感じ、何に気づいたかを咀嚼し、経験として意識づけさせるため、レポート提出は必須。所定の用紙を用意し、「献立名」「食事内容の栄養分類」「工夫した点」「反省・感想」に加え、「家族の感想」(自筆必須)と写真を添付させている。食事づくりは家で気軽にできることなので、クラス単位の体験課題として取り入れてみてはどうだろうか。

>>POINT

- 献立作成から片付けまですべて自分でやることを義務づける
- 家族に感想を書いてもらうことで家族を巻き込む
- 体験を自身の中に定着させるため必ず写真付きレポートを提出させる

体験学習事例 CASE1



会いたい大人に会って話を聞いてくる。教師は「見守る」に徹することがポイント

[宮城・私立宮城学院高校]

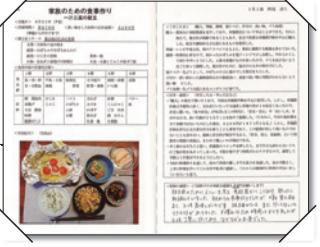
宮城学院高校の現代社会科目では、1学年の夏休みに「はたらく人にインタビュー」という課題を出している。会いたい「働く人」を自力で探し、アボを取つて話を聞きに行き、レポートにまとめるというもの。1学期に課題を告知し、夏休み直前、改めて課題内容をまとめたプリントを渡すが、具体的な事前指導はあえて行わない。あくまで生徒の自主性にまかせる。中には、家族の紹介だからと電話でアボを取らず直接会いに行って叱られたり、要領の得ない電話をかけていきなり切られたりする生徒もいる。しかし、それもまた貴重な経験。きわめて自由度の高い宿題だが、「この体験が社会との接点の始まりとなり、自分と社会との関係を考えるきっかけになれば」と同校は考えている。

体験学習事例 CASE2



>>POINT

- 事前指導では課題意図をしっかり伝えるだけ
- 必要以上の事前指導、本番フォローはしない
- 評価ポイントは「どれだけ人と向き合ったか」



生徒のレポートまとめの例

